

ヒナモロコ里親会  
Hinamoroko Foster-parents Club (略称 HFC)

平成 17(2005)年度活動報告書

(助成期間：平成 17 年 月 日～平成 17 年 10 月 31 日)



平成 17(2005)年 9 月 25 日の放流会 於； 堤  
撮影；村上 政利

「ヒナモロコ里親会」実行委員会  
実行委員長

大石 敏

平成 17 年 10 月 31 日

## 《 巻 頭 言 》

「ヒナモロコ里親会」も 8 年目の活動を、さる 10 月 23 日の放流で一応の区切りをつけることが出来ました。これはひとえに会員各位のたゆまぬ努力の結果であり、(社)日本動物園水族館協会と(株)海の中道海洋生態科学館からのご支援の賜です。本当に有り難うございました。

さて、ヒナモロコが田主丸町で再発見されて 11 年経ちました。その間にヒナモロコの生息している環境にも様々な変化が押し寄せてくるようになっていきます。その最大のものは、ヒナモロコが生息している農業用水路の有りようです。

従来からヒナモロコの生息には、農業と農民、そして農業行政との関わりを抜きにしてヒナモロコの保護を語る事が出来ません。特に農家の就業人口の老齢化と、後継者不足はほとんど改善されていません。よって、「手間のかからない農業」が常に農業従事者からの要望として出てきます。

「手間のかからない農業」は、ヒナモロコにとって最悪の農業といわざるを得ません。しかし時の流れは、その様な要望を 100 % 拒否することが出来ない場合があります。ヒナモロコの置かれている環境もそういった流れにさらされるようになりました。

自然界に生きるヒナモロコには、今ある環境をとりあえず、100 % 維持しなければなりません。その一方で、どの様な環境、どの様な範囲までが、ヒナモロコの保護に必要な最低限の範囲なのかと問われています。ヒナモロコに聞くわけにもいきませんから、勝手に範囲を決めてしまうわけにもいきません。とって、ほったらかしておくこともできない状況が、少しずつ生まれてきました。

2006(平成 18)年は、その様な様々な動きが確実に出て来ます。ヒナモロコにとって、良いものになるのか、キチンとした見極めをして、ヒナモロコにとってのベストを「ヒナモロコ里親会」は行動をもって尽くしていきたいと思えます。

平成 17(2005)年.10.31

「ヒナモロコ里親会」事務局  
文責 村上 政利

# 《 目 次 》

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局編集部

平成 17(2005)年度活動記録

平成 17(2005)年度活動実績

**【資料】 ヒナモロコ飼育奮戦記**

ヒナモロコ通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第 37 号  
第 38 号  
第 39 号  
第 40 号  
第 41 号  
第 42 号  
第 43 号

ヒナモロコのこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ヒナモロコのプロフィール

ヒナモロコ里親会の歩み

規 約

会員名簿(順不同)



於；久留米市田主丸町  
事務局スナップ

編集；「ヒナモロコ里親会」実行委員会事務局

## 平成 17 年度活動記録

第 8 回「ヒナモロコ里親会」・・・平成 16 年 9 月～ 17 年 10 月（2004～05 年）

12 月 1 日現在 登録会員 合計 52 名

(社)日本動物園水族館協会の助成金による活動

月	日	活 動	内 容	開催場所
		平成 16 年		
9	19	里親集会	第一回目放流会	田主丸中学校
10	17	里親集会	第二回目放流会	田主丸中学校
11	28		前年度の総括と反省会	田主丸中学校
		平成 17 年		
1	23	準備・打ち合わせ	H 16 年度の計画・打ち合わせ	田主丸中学校
2	27	里親集会	ヒナモロコの相互交換 (昨年度各自飼育したヒナモロコの親魚を持ち寄って、会員同士で半分ずつ相互交換する) 新加入里親任命式	田主丸中学校
3	27	里親集会	ヒナモロコの相互交換(2月欠席の会員) 中央公園の池の生態調査 講習会/ヒナモロコの生態等	田主丸中学校
4	24	里親集会	自然水路の生態調査 飼育報告会 飼育記録の発表	田主丸中学校
5	29	里親集会	二田の堤の生態調査 川に入って魚取り 飼育報告会	田主丸中学校 No.40
6	26	里親集会	飼育報告会 講習会	田主丸中学校
7	17	里親集会	飼育報告会 水辺の教室 午前 10:00~ (耳納塾協賛) (小、中学生も参加して、大人と一緒に川に入り、網で魚取りをする行事)	田主丸中学校
8	28	里親集会	講演会；そよかぜホール 高山賢治氏、野中繁孝氏	
9	25	里親集会	第一回放流会	田主丸中学校
10	23	里親集会	第二回放流会 活動報告書の作成準備	田主丸中学校

## 《平成 17(2005)年度活動実績》

(助成期間：平成 16 年 9 月 1 日～平成 17 年 10 月 31 日)

産卵・飼育等の増殖活動を通して増えたヒナモロコを、(社)日本動物園水族館協会の助成活動として同年 9 月と 10 月に、以下の 5 地点に放流した。

平成 17(2005)年 9 月 25 日(日曜日)	放流場所	放流数
ヒナモロコ放流会(1 回目)	甲(池)	650 尾
	乙(堤)	800 尾
	丁(堀)	750 尾
	町(巨瀬川)	1295 尾
		3,495 尾
平成 17(2005)年 10 月 23 日(日曜日)		
ヒナモロコ放流会(2 回目)	甲(池)	250 尾
	乙(堤)	250 尾
	丙(水路)	650 尾
	丁(巨瀬川)	500 尾
		1,650 尾
総合計		5,145 尾

\*放流場所の具体的地名は伏せております。

\*上記日時以外に、会員の都合で放流された数を、加算しています。



の水路



田主丸町の「巨瀬川」



の堀

# ヒナモロコ飼育奮戦記

ヒナモロコ通信 第 37 号

平成 17年 2月 18日  
(社)日本動物園水族館協会助成活動

平成 17(2005)年度の活動

2月の予定

第 22 回定例会合(通算開催)

2月 27日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 田主丸中学校

ヒナモロコの相互交換 昨年度各自飼育したヒナモロコの親魚(全数、出来るだけ多く)を持ち寄って下さい。

ヒナモロコを混ぜて全会員に再分配します。

内容

1. 平成 15 年度 活動報告書、会計報告書
2. 稚魚、親魚用 エサ
3. 強力ブロアー(エアーポンプ)

この度、2月5日をもって田主丸町は久留米市と合併しまして、住所が変更になりました。

又そのことによって、「田主丸町の天然記念物」が「久留米市の天然記念物」に変更されましたが、行政の担当窓口(文化財保護課)等全てが、久留米市に移ってしまいました。

今後の対策等の話し合い、又昨年度の総括として、活動報告書・会計報告書等を配布いたします。どうぞ宜しくお忙しい中を、万障繰り合わせてご出席下さいますようお願い申し上げます。

平成 17(2005)年度の活動

2月に出席できなかった会員の方は、必ずご出席をお願い申し上げます。

3月の予定

第 23 回定例会合(通算開催)

3月 27日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 田主丸中学校

ヒナモロコの相互交換 昨年度各自飼育したヒナモロコの親魚(全数、出来るだけ多く)を持ち寄って下さい。

ヒナモロコを混ぜて全会員に再分配します。

里親訪問 田主丸中学校 古賀恒徳校長、鐘ヶ江優先生・・・(田主丸町)



古賀恒徳校長



鐘ヶ江優先生

中学校では、「総合学習」の一環として、「命の大切さ」など生き物を通しての学習資料として、『ヒナモロコ』が選ばれた。その為「ヒナモロコ里親会」も中学校で、定例の集会を開くようになって、現在に至っている。

学校でのこのようなヒナモロコといった生き物の飼育は、大変な苦勞がつきまとう。まずヒナモロコには「土曜日、日曜日がない」。そのうえ一日最低1回の「エサやり」が必要で、一つの水槽にかなりの人口密度ならぬ「魚尾密度」が高いので、「水質保全と水槽清掃」が、定期的に欠かせない。

従って田主丸中学校でのこのような活動には、次のことが必須の条件となる。

「古賀恒徳校長先生の御理解と強力なご支援」、「鐘ヶ江優先生のように土、日曜日をいとわず出勤してエサをやる事」。



玄関脇の池。室内の水槽と屋外の池での効果的な飼育が行われている。

今まで田主丸町の各小学校でも色々な試みが行われて来た。しかし「ヒナモロコ里親会」会員の活動そのものが(生計仕事の合間をぬっての)ボランティアですので、各学校の活動に(中学校以外では)積極的にお手伝いできない状況でした。

今後は出来るだけ、状況を改善して、一緒にやっけて行けるようにガンバリたいものです。

編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会

平成 17(2005)年度の活動  
をお願い申し上げます。

2月に出席できなかった会員の方は、必ずご出席

3月の予定

第23回定例会合(通算開催)

3月27日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 田主丸中学校

ヒナモロコの相互交換 昨年度各自飼育したヒナモロコの親魚(全数、  
出来るだけ多く)を持ち寄って下さい。

- 内容
1. 平成15年度 活動報告書、会計報告書
  2. 稚魚、親魚用 エサ
  3. 強力プロアー(エアポンプ)
  4. 年会費

里親会のスナップ

2005(平成17)年2月27日

写真; 大石 敏 実行委員長



会員各自が色々な容器にヒナモロコを入れて  
持ち寄ります。

沢山のバケツに、あらかじめ水を入れ、



持ち寄ったヒナモロコを、手際よく  
バケツに分けていきます。

「本当にヒナモロコが好きなんだな・・・!!!」  
と、しみじみ思いました。

(編集部)



編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会



平成 17(2005)年度の活動

4 月の予定

第 24 回定例会合(通算開催)

4 月 24 日(日曜) 午前 10:00 ~ 12:00

於 ; 田主丸中学校

- 内容
1. 稚魚、親魚用 エサ を用意しています。
  2. 強力プロアー(エアープンプ)
  3. 年会費

里親訪問 村上政利 (久留米市田主丸町)



ヒナモロコに限らず、生き物の飼育には手間・暇がかかります。そこで如何に効率よく産卵を「採卵」するのかと考え、採用された道具です。昨年高田さんが、この方法ですばらしい成果を上げられました。

プラスチックのカゴに水草を詰め込み、この中に産卵させて、カゴごと別の水槽に移して、孵化させる、という方法です。産卵カゴは、ヒナモロコの親魚の隠れ場所ともなりますので、産卵に不適な「コウホネ」を廻りに繁殖させ、ヒナモロコを安心させます。



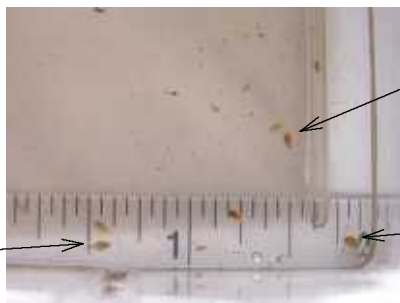
お腹の大きなメスがオスを引連れて、カゴの中に突進してくる。

なおこれにはコツがありまして、カゴをゆっくり引き上げないと、親魚も一緒に移してしまい、気が付いたときには、せっかく孵化した稚魚が食べられていた、ということになりますので、注意が必要です。(経験談話)

写真はカゴを引き上げやすいように石の上にセットして、ある程度の水位を確保している。エサは、ミジンコを出来るだけ与えたいと、工夫しています。

庭に発泡スチロールケースをおいて、鶏糞や田んぼの土を混ぜて水草を入れて放置すると、ミジンコが発生して、繁殖します。これを出来るだけ主力のエサとします。

人口のエサは、ヒナモロコのフンがヘドロ状になりやすく、水質悪化の原因となり、水槽の水換えが大きな負担となります。この状態を改善するには、エサを色々変えてヒナモロコの体質改善を計る必要があると、考えて計画された方法の一つです。



ミジンコ 親で約2ミリ



10個の水槽を、雨ざらしの状態を設置している。



編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会

## ヒナモロコ通信 第40号

平成 17年 5月 22日

(社)日本動物園水族館協会助成活動

平成 17(2005)年度の活動

5月の予定

第25回定例会合(通算開催)

5月29日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

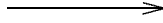
於; 田主丸中学校

内容

**川に入って魚取りをします!!!**

最近、旧浮羽郡の地元の方々から、ヒナモロコがいるとの多くの情報が寄せられるようになりました。「ヒナモロコ里親会」ではこのような情報に鑑み、又、放流したヒナモロコの追跡調査が、今までの所大変不十分でしたので、この機会に川に入り、童心に帰って、ヒナモロコの探索、調査を行います。

胴長



網



写真は  
2003(平成 15)年 11 月 16 日

胴長と網は中学校に常備しています。ぜひ奮って参加して下さい。最高の日和に行えそうです。



前回(第 24 回集会)

久留米市に編入された  
「ヒナモロコ里親会」の将来について、  
ヒナモロコ発見 10 周年の記念行事を  
計画し、実行する中から、  
将来を模索する・・・事になりました。

記念行事は 8 月「くるめウス」で  
予定しています。

里親訪問 休みます。

平成 17(2005)年度の活動

6 月の予定

第 26 回定例会合(通算開催)

6 月 26 日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於 ; 田主丸中学校

5 月と同様に、川で魚取りをします。

編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会

平成 17(2005)年度の活動

7月の予定

第27回定例会合(通算開催)

7月17日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 旧田主丸町役場裏(南側)

内容 「水辺の教室」

**川に入って魚取りをします!!!**

最近、旧浮羽郡の地元の方々から、ヒナモロコがいるとの多くの情報が寄せられるようになりました。 前回、前々回の「ヒナモロコ里親会」会合ではこのような情報に鑑み、又、放流したヒナモロコの追跡調査が、今までの所大変不十分でしたので、この機会に川に入り、童心に帰って、ヒナモロコの探索、調査を行いました。



5月と6月の魚取りは、一面のレンコン畑に繋がる水路です。一部に土管が埋められていたり、わき水等もあって、一年中水の流れが途絶えることはありません。

ちょっと見ただけで、メダカ、そしてフナが元気良く泳いでいるのが確認できました。但しいろいろな浮遊物で、水路が汚れているのは確かです。

ドンコ、ドジョウ、ヨシノボリ・・・取れました。



実行委員長です

平成 17(2005)年度の活動

8月の予定

第 28 回定例会合(通算開催)

8月28日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; くるめウス(久留米市)

又は「そよかぜホール」(田主丸文化館)

[ 詳細未定 ]

題目; 講師を依頼しています。

「ヒナモロコ里親会」の今後のあり方を決定します。

組織の再編と運営方針について・・・など。

ご期待下さい。

編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会

ヒナモロコ通信 第 42 号

平成 17年 8月 16日

(社)日本動物園水族館協会助成活動

平成 17(2005)年度の活動 「ヒナモロコ発見! 11周年記念講演会」

8月の予定

第 28 回定例会合(通算開催)

8月28日(日曜) 午後 1:00~3:00

於; そよかぜホール(別紙地図を添付)

内容

【第一部】 報告者 村上 政利

「ヒナモロコ里親会」の現状と将来への課題。

組織の内情と会員の現状を報告して、再編の方途を探る。

久留米市の「天然記念物」となったヒナモロコの現状と将来。

【第二部】演目；ヒナモロコの発見と「ヒナモロコ里親会」の誕生

講師 野中繁孝 氏 ((財)九州環境管理協会)  
「ヒナモロコの発見と保護・増殖活動の開始と、その経過・・・」

講師 高山賢治 氏(イーハトーブ耳納の里づくり塾・事務局長)  
「ヒナモロコ里親会の組織作りとその発端について」

【総括】 「ヒナモロコ里親会」実行委員長 大石 敏

平成 17(2005)年度の活動

9月の予定

第 29 回定例会合(通算開催)

9月 25 日(日曜) 午前 10:00 ~ 12:00

於；田主丸中学校

本年最初の放流です。大きく育ったヒナモロコを持ち寄って下さい。

7.17 「水辺の教室」耳納塾主催に参加。(筑後川の支流、巨瀬川にて)



前回と同様に盛会でした。約 50 名。前日の雨のあと、天気は快晴。

この巨瀬川での子供達の中心的な活動は、きっと魚取りより、水泳かなと思わせるにぎわいだった。





みんなで捕まえた魚たちを二つの水槽に入れて、橋本哲男先生に解説していただきました。捕まえた魚を欲しがっている子供達に、川に戻して、又来年会えるようにしよう、と説明して、散会した。

編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会

## ヒナモロコ通信 第43号

平成 17年 9月 20日  
(社)日本動物園水族館協会助成活動

平成 17(2005)年度の活動

9月の予定

第 29 回定例会合(通算開催)

9月25日(日曜) 午前 10:00~12:00

於；田主丸中学校

本年最初の放流です。大きく育ったヒナモロコを持ち寄って下さい。

「ヒナモロコ里親会」定例集会「於；そよ風ホール」

2005(平成 17)年 8月 28日

本年度も、いよいよ放流会でおしまいです。(社)日本動物園水族館協会の3年間に渡るご援助は、言葉に尽くせぬほどありがたいものでした。ここに紙上を借りまして、厚く御礼申し上げます。

さてこの会合では、出席会員にアンケートをいただきました。実行委員会は、このアンケートに基づき今後の「ヒナモロコ里親会」の進路・方針を決定し、実行します。その目的は、「ヒナモロコ里親会」は、その経済的基盤が大変弱く、為にこれを克服して、各会員の経済的負担の軽減とヒナモロコの飼育・増殖活動をより有効にサポートするための体制を作るものです。

なお、今回出席されなかった会員には、別紙お送りしますので、Fax・郵送・メール等の手段をもって、ご回答下さることを心よりお願い申し上げます。

次にこの度、岐阜県河川環境研究所の大原健一さんより「希少淡水魚の現在と未来 積極的保全のシナリオ」という書籍を頂きました。この中で「ヒナモロコ里親会」が取り組む具体的シナリオの事例がありましたので、この内容を会合で紹介して皆さんにご検討いただきたいと思います。

本年も、9月・10月の放流で終わります。平成17年度の活動報告書を作成して、この活動にご参加いただいている皆様のお名前が永遠に記録されるようにします。どうぞ宜しく引き続きご協力をお願い申し上げます。

#### 平成17(2005)年度の活動

10月の予定

第30回定例会合(通算開催)

10月23日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 田主丸中学校

2回目の放流です。大きく育ったヒナモロコを持ち寄って下さい。

編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会

実行委員長 大石 敏

事務所; 連絡事務等 村上 政利

電話 0943-74-4052 Fax 0943-74-4051

(新住所) 〒839-1233 福岡県久留米市 田主丸町 田主丸 1204-50

新メール [hinaamoroko@titanist.com](mailto:hinaamoroko@titanist.com)

ホームページ <http://www.geocities.jp/titanist2003/index.html>



## 《ヒナモロコのこと・・・》

ヒナモロコの成魚 雌



ヒナモロコの成魚 雌



(婚姻色の出た個体)

ヒナモロコの成魚 雄



(婚姻色の出た個体) 撮影；橋本 哲男

## 《ヒナモロコのプロフィール》

学名	<i>Aphyocypris chinensis</i> Günther
科・属	コイ科ハエジャコ亜科ヒナモロコ属
地方名	タバヤ、トンコスバヤ、メダカ、など
全長	6 ~ 7 cm程度
染色体数	2n = 48
分布	北部九州、国外では朝鮮半島、中国大陸
近似種	カワバタモロコ。オイカワ、カワムツの稚魚。モツゴなど
生息場所	流れの緩やかな小河川の淀みや細流、水路、浅い池など

## 《ヒナモロコの飼育、増殖について》

### 親魚（成魚）の飼育

#### 1、飼育用水槽

親魚は60cm以上の水槽で飼育した方がよい。（20～30匹程度がよい。）

水槽が小さいと魚の数にもよるが、酸素欠乏を起こしやすい。また、運動不足から体型が悪くなったり、後天的な奇形を起こしやすい。

#### フィルター（濾過装置）

フィルターは必ず使用する。上部、底面、内部、外部フィルターのいずれでも可。

エアレーションも必ず使用。

#### 底面の砂

2～3cm程度敷く。砂を敷くとバクテリアなどが発生し、水質が安定する。砂を敷かない場合は水質により注意する。

#### 2、水槽設置場所

温度変化が少ない場所。室内、屋外いずれでも可。直射日光が当たらない間接光程度の窓際やベランダなどの明るいところ。あまり暗いと水草などの生育が悪くなる。暗い場合は水槽用蛍光灯を使用する。直射日光が当たると産卵しにくくなる傾向が見られる。

#### 3、水温

ヒナモロコの親は季節的な温度の変化には比較的強い魚で、0度から35度程度まで耐えられる。しかし、適温は20～25度くらいと考えた方がよい。産卵もそのくらいの水温の時、一番活発である。

冬場、ヒーターは使用してもよいし、使用しなくてもよい。使用した場合、夏場と同じように餌を食べ、成育する。特に、稚魚はできるだけ使用した方がよい。使用しないと死んでしまう場合が多い。

#### 4、餌

雑食性で人工配合飼料、ミジンコ、冷凍アカムシ、乾燥エビなど何でもよく食べる。

1日1～2回程度。5分程度で食べてしまう量。やりすぎは水質の悪化につながる。

#### 5、水換え

魚の数と餌の食べ残しによって違うが、1週間に1回程度はした方がよい。

水槽半分ずつ、水道水の汲み置きしたもの、井戸水などを使用。水道水を直接使う場合はカルキ抜き（テトラコントラコロラインなど）を使う。水換えによる水温の変化に注意する。（5度以内程度に抑える。）

#### 6、水草

オオカナダモなどの水草を入れてもよい。川から取ってきた水草はヒルやヒドラなどが付着している場合が多いのでよく洗って使用する。産卵期に水草を入れておくとそのまま産卵する場合がある。

水草は光が足りないと次第に枯れていくので、水槽を明るい場所に設置するか、水槽用蛍光灯を使用する。

## 7、病気

ヒナモロコは比較的病気になりにくいですが、急激な水温や水質、環境の変化が起こった場合、病気になる場合があります。

### かかりやすい病気

白点病、水カビ病、尾ぐされ病、寄生虫、酸素欠乏など

### 治療

病気の種類によって違うが、いずれの場合も水温、水質の安定をはかることが大事である。そして、治療薬などを使用する。

### 治療薬（商品名）

水カビ病・・・マラカイトグリーン、スーパーカットなど

尾ぐされ病・・・グリーンFゴールド顆粒など

寄生虫(白点病)・・・ニューグリーンFなど

寄生虫(イカリムシ症)・・・リフィッシュなど

### 参考資料（図書名）

アクアブックス 知っておきたい魚の病気と治療（日本動物薬品株式会社）

\*魚類の病気と治療について、次回に特集を考えています。（編集部）

## 8、奇形

ヒナモロコは骨格、鰭、頭部、吻部の変形、鰓蓋の欠損、眼球の突出など奇形が出やすい。後天的にも骨格の変形、成長異常などが頻繁に見られる。

## 増殖

### 1、産卵時期

飼育下では3月～11月ぐらいまで。稀に水温が高い室内などでは12月にも産卵することがある。逆に、8月頃の30度を超えるような水温の高い時期には産しない。

最盛期は5月～7月頃

自然下でも3月、4月頃の春期、9月、10月頃の秋期にも産卵している。

### 2、産卵条件水温

15度～30度ぐらいまで（30度を超えると産卵しない）

20度～25度ぐらいが最適温度

### 3、産卵時間

夜明けから午前中にかけて、稀に夕方。（飼育下）

### 4、婚姻色

産卵期になると雄、雌とも幅2mmほどの縦縞がはっきりと出てくる。これを婚姻色という。特に雄は顕著になる。雌は腹部が膨れてくる。

### 5、増殖方法

#### セット

通常の飼育用水槽でも自然産卵するが、親魚の水槽から産卵用水槽に婚姻色の出た個体を移し産卵させる方が卵の回収がしやすい。雄、雌の比率は2：1，3：1程度。40cm程度の水槽で雄4匹に雌2匹、雄6匹に雌2匹程度。

産卵用水槽には水草を入れ、エアレーションをする。濾過器は使用しない。濾過器を使用すると、産卵した卵が吸い込まれる。砂も敷かない。砂を敷くと卵が発見しにくい。

産卵用の水草はオオカナダモ、ホテイアオイ等を使用し、多めに入れる。採集直後の水草はヒドラなどの発生が見られるので注意を要する。

#### 産卵

天気の変化や水換えなどが刺激となり、産卵行動を始めることが多い。

婚姻色が出た数匹の雄が雌を盛んに追尾し始める。やがて、雄が雌の腹部をつつき始めると雌は水草の上で卵をばらまくように産卵する。受精もその時に同時に行われる。

#### 卵の回収

産卵したばかりの卵は透明で約1mm前後と小さく発見しにくい。確認するためには、水草を手で取り上げよく見ること。または、水草を目の細かい網ですくい、

網の底に卵がついているかよく見ること。水草にも付着しているが、相当数底面にも落下しているため、底面が黒い水槽の方が発見しやすい。モノアラガイの卵や水の細かい泡等と間違えやすい。産卵が確認できたら、速やかに親魚を産卵用水槽から出す。もしくは、卵を別の容器に移す。そうしないと、親魚に卵を食べられてしまう。

#### 産卵数

条件によって異なるが、だいたい200から400卵。水温が低かったり、条件が整っていない場合は産卵数が非常に少ない場合もある。

### 6、稚魚の飼育

#### 稚魚用水槽

産卵した卵（卵の付着した水草）は別の水槽、容器に移すか、親魚を移した産卵用水槽をそのまま稚魚の飼育用水槽にする。容器は大きいバケツや衣装ケースなどを使用してもよい。

エアレーションのみ、濾過装置は使用しない。

#### 孵化率

条件によって異なる。産卵した卵が殆ど孵化することもあるが、全く孵化しない場合もある。

#### 孵化時間

- 15度・・・4～5日
- 20度・・・2～3日
- 22度・・・約48時間
- 27度・・・約24時間
- 29度・・・約18時間

#### 仔魚

孵化したばかりの仔魚は約3mmで、鰓、眼などの諸器官が発達していない。水面や水草にぶらさがっている。水温によって違うが、2～3日すると自由遊泳を開始する。

#### 仔魚の餌

泳ぎ始めた仔魚には細かい餌を与える。初期：ワムシ、ゾウリムシ、仔魚用配合飼料（クロマベビーフード、ひかりパピィ、テトラミンベビーフードなど）、固ゆで鶏卵など。しだいに：ミジンコ、アカムシ、ブラインシュリンプ、配合飼料などを1日1～2回程度与える。

#### 未成魚

魚の数や成長の具合、水質に応じて水換えをしたり、飼育水槽を替える。水質の悪化は酸欠の原因となる。また、魚の数が多いと成長が遅い個体が出てくる。成長の差が非常に目立つ。

秋に産卵したものはヒーターを入れないと冬を越せない場合が多い。  
約半年から1年で成魚になる。

ヒナモロコの卵(8 ~ 16 細胞)



ヒナモロコの稚魚(孵化直後)



## 《ヒナモロコ里親会の歩み》

注記；本資料は、(財)九州環境管理協会・野中繁孝氏からの資料(2005.8.28)を  
基にして加筆し、全体を耳納塾事務局にて編集したものである。

敬称略

- 氷河期 「ヒナモロコ」大陸から九州へ？  
1937年 「ヒナモロコ」日本で初めて報告(森)「朝鮮博物学雑誌」  
福岡市近くから採集(岡部先生)。  
1948年(昭和23年) 「ヒナモロコ」の生息場所の報告(今井)  
多々良川、那珂川、筑後川、宝満川の各水系、ヒナモロコ生息の確認。  
1980年前後、福岡市の多々良川では絶滅したらしい(木村先生談)。  
1982年 浮羽郡田主丸町片ノ瀬(現在は久留米市)の水路で5尾ほど採集される  
(東海大・秋山氏)。

- 平成3年(1991) 環境庁が絶滅危惧種に指定。  
1月 北野町(現在久留米市)で確認(渡辺)。  
北野町の西鉄大堰駅南約1kmの用水路で3cmのヒナモロコ1尾採集される  
(財)淡水魚保護協会)。  
10月 田主丸町巨瀬川北側の古川水系で確認(橋本)  
この記録以降生息が確認できなくなった。

- 平成4年(1992)  
耳納塾をはじめとするボランティアの活動として、「ヒナモロコ」探索の開始。

- 平成5年(1993)  
5.22 木村清朗・九州大学教授が、田主丸町中央公民館で  
「河川環境と川魚」と題して講演。ヒナモロコは絶滅危惧種になっているが、  
町内を探せば見つかる可能性があると話す。

平成 6 年(1994)

- 11.19 シンポジウム「ヒナモロコにつぶやき」開催  
主催；耳納塾(西村、高山) (田主丸中央公民館)  
講師は木村清朗先生(九大農学部教授・当時)。「筑後川の淡水魚類」と題して講演。  
(財)九環協が繁殖・飼育中のヒナモロコ 10 数尾を福岡市から借用展示  
(再発見へ!)。  
講演終了後、展示魚を見た竹野小学校の児童・先生から教室で飼育している  
ことをしらせ、これが発見につながる。
- 11.24 田主丸町巨瀬川南側の水路で確認。  
橋本先生が竹野小学校に出向き、飼育中の魚がヒナモロコであることを確認。  
発見された田主丸町善院の水路で 26 尾を捕獲(内山)し、橋本先生に提供。
- 11.26 木村先生、耳納塾、(財)九環協が竹野小学校を訪れ、  
飼育中の約 30 尾がヒナモロコであることを再確認。
- 11.29 木村先生、耳納塾、(財)九環協が発見された水路の現状を見て、  
絶滅の危険性が大きいと判断し、当時の水路の状況は、水がほとんど流れて  
おらず、所々に水溜まりが残っている程度で、柔らかい底土には水鳥の足跡が  
いっぱい付いていた その場で可能な限り捕獲(50 数尾)。

平成 7 年(1995)

- 2.10 生息地水路の多自然型工法での改修を決定。  
(ミサ&ヒナコ倶楽部、井上ほか善院地権者)
- 5.24 ヒナモロコプロジェクト第一回会合 愛称を「ヒナモロコ救助隊」と決定。  
(井、岩佐、竹上、日野、馬田、石橋、川崎、丸林、有村ほか)
- 6.22 町指定天然記念物として告示(現在は久留米市の天然記念物)  
(田主丸町 右田町長、田主丸町教育委員会 山下教育長)
- 7.20 竹野小学校のヒナモロコ産卵孵化を確認(繁殖開始)。  
(竹野小学校・古賀校長、袋野教諭、小学校児童、PTA の皆さん)  
竹野小学校で 1 回産卵させ、30 ~ 40 尾の稚魚を得る。  
耳納塾会員 2 人が、延べ 10 回産卵させ、約 400 個体の稚魚を得る。  
(財)九環協が 20 個体を用いて、個体を識別しながら 16 回のペアリングで  
約 2,000 個体の稚魚を得る(協会の公益事業として取り組む)。
- 12.09 耳納塾主催シンポジウム「ヒナモロコにつぶやき」第二回

平成 8 年(1996)

- 4.19 町と(財)九州環境管理協会との間で、増殖事業委託契約締結(一回目)2 年間。  
この時耳納塾が飼育管理中の 15 尾を協会に持ち込む(この年はオス不足で  
あったが、13 回のペアリングで約 2,000 尾の稚魚を得る (財)九環協・野中氏)
- 4.26 乙堤へ稚魚放流(約 1000 尾)
- 5.07 田主丸町立小・中学校校長会にヒナモロコ飼育を依頼
- 6.20 ヒナモロコ放流祭

平成 9 年(1997)

- 4.1 町と(財)九州環境管理協会との間で、増殖事業委託契約締結(二回目)。
- 12.14 耳納塾主催シンポジウム「ヒナモロコのつばやき」  
里親方式によるヒナモロコの保護活動を立案(高山)。

平成 10 年(1998)

- 3.22 第一回ヒナモロコ里親任命式(耳納塾主催・林、高山)  
(田主丸町教育委員会 山下教育長)  
ボランティアによる本格的増殖活動の開始。第一回里親会員・約 30 名。
- 9.13 ヒナモロコ放流会(3 保存地区に放流)
- 10.18 第一回ヒナモロコ保全対策委員会の発足(2000 年までの 3 年間)  
(社)日本水産資源保護協会の委託事業。(木村委員長、金子)  
田主丸町～北野町～大刀洗町～小郡市～三橋町～神埼町～鳥栖市～甘木市～  
久留米市～筑後市～朝倉町～吉井町など、ヒナモロコが生息する可能性のある  
水域を採集調査。  
【最初に発見された水路流入点の巨勢川と放流した溜池を除き採集できず】  
この調査の他、委員会ではヒナモロコの繁殖・放流、卵発生の記載も行う。

- 11.15 乙の堤にてヒナモロコ放流

平成 11 年(1999)

- 3.14 第二回ヒナモロコ里親任命式
- 6.13 フォーハートクラブ社会貢献団体選考委員会から表彰。
- 9.19 ヒナモロコ放流会。 第二回ヒナモロコ保全対策委員会開催。

平成 12 年(2000)

- 3.20 第三回ヒナモロコ里親任命式
- 7.23 第三回ヒナモロコ保全対策委員会(終了)
- 9.23 ヒナモロコの放流(1 回目)を伴い、グランドワーク協会と  
(財)日本グランドワーク協会(福岡市)の参加を得て、日英ヒナモロコ交流会として  
開催。イギリス人親子 24 名参加。
- 10.22 ヒナモロコ放流会(2 回目)

平成 13 年(2001)

- 1.21 「ヒナモロコ里親」の会を耳納塾の後援を得て、分離独立することを決定。
- 2.18 「ヒナモロコ里親会」の設立(代表;大石委員長)。  
設立参加会員・約 40 名。(里親会通信の発行。規約の制定等・・・)
- 3.上旬 福岡県レッドデータブック 2001 にて絶滅危惧種指定。
- 3.20 第四回ヒナモロコ里親任命式 於;田主丸中学校 主催;ヒナモロコ里親会  
(田主丸町町長 馬田 博、教育委員会委員長 古賀忠義)
- 9.16 ヒナモロコ放流場所の確保のために、甲の池を整備し(1 回目)、  
ヒナモロコを放流。
- 9.23 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.21 ヒナモロコ放流会(2 回目)。 甲の池を整備(2 回目)。

平成 14 年(2002)

- 3.10 平成 13(2001)年度活動報告書の編集・製作・発行。  
第五回ヒナモロコ里親任命式
- 8.18 水辺の教室 午前 10:00~
- 8.27 (社)日本動物園水族館協会より平成 14 年度野生動物保護募金の助成団体に  
決定。(計 3 回、2004 年度まで)  
海の中道海洋生態科学館からの推薦を受けて、受賞することになった。
- 9.15 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.20 ヒナモロコ放流会(2 回目)
- 11.10 中学生の水辺の教室(浮羽0-列-クラブ の後援)

平成 15 年(2003)

- 3.23 平成 14(2002)年度活動報告書の編集・製作・発行。  
第六回ヒナモロコ里親任命式
- 8.26 (社)日本動物園水族館協会より (第 2 回目)  
平成 15 年度野生動物保護募金の助成団体に決定。
- 9.21 ヒナモロコ放流会(1 回目)。 水辺の教室 午前 10:00~ 開催。
- 10.19 ヒナモロコ放流会(2 回目)。

平成 16 年(2004)

- 3.21 平成 15(2003)年度活動報告書の編集・製作・発行。  
第七回ヒナモロコ里親任命式
- 8.26 (社)日本動物園水族館協会より (第 3 回目)  
平成 16 年度野生動物保護募金の助成団体に決定。  
水辺の教室 午前 10:00~ 開催。
- 9.19 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.17 ヒナモロコ放流会(2 回目)

平成 17 年(2005)

- 2.27 平成 16(2004)年度活動報告書の編集・製作・発行。  
第八回ヒナモロコ里親任命式
- 3.27 「ヒナモロコ里親会」定例集会  
会員が飼育しているヒナモロコの親魚を持ち寄り、相互交換して、  
春の産卵のための準備をする。
- 7.17 恒例の「水辺の教室」開催。主催；耳納塾に協賛
- 8.28 そよかぜホールにて講演会。  
講師 高山賢治氏(耳納塾事務局長)、野中繁孝氏((財)九州環境管理協会)
- 9.25 第一回目の放流
- 10.23 第二回目の放流

----- (現在に至る)



## 《 規 約 》

- 1.名称 「ヒナモロコ里親会」略称を「里親会」とする。  
英文 Hinamoroko Foster-parents Club (略称 HFC)  
\*実行委員会の決定により、英文呼称を規約第一条に追記。(平成 13.11.)
- 2.目的 ヒナモロコの飼育・繁殖・放流等の保護活動を行う。  
ヒナモロコの飼育・繁殖・放流等を記録し書類等に<sup>へんさん</sup>編纂して残す。
- 3.入会資格 ヒナモロコの飼育と増殖・放流等の活動に参加して、  
ボランティア精神を発揮できる個人又は団体。  
一般社会人としての常識を有する個人又は社会的に認知された団体で、  
この里親会を物理的・精神的、又は金銭的に支援することが出来る  
個人又は団体。
- 4.人事 任期 1 年 再任、兼任可。  
名称 ; 顧問 実行委員長 実行委員  
書記 会計監事 業務部(含む経理)
- 5.職務の内容  
顧問 ヒナモロコに関するアドバイス等々全般の助言。  
実行委員長 対内・外向けの看板。  
里親会議をスムーズに運営するために必要な一切を実行委員との合議で  
決定する。議長・講師・書記・会計監事を適時実行委員を含む会員の中か  
ら任命する。また別途必要に応じて役員を選任する。  
実行委員 相互に分担して必要な任務に当たる。  
業務部(含む経理) 会の経理を担当する。里親会毎に集計して、会計監事の印鑑を  
受けるものとする。
- 6.会費 単年度毎の会費 個人又は団体 ¥ 2 , 0 0 0 -  
使用用途---一年間の通信費用その他
- 7.活動 目的を達成するための一切の行動。  
里親会の開催など 会員の募集  
広報通信誌の発行  
会を会たらしめるための一切の行動  
看板の作成 ゴム版と印鑑の作成  
会員証の発行  
その他、会員の建議・討論・合議によって決定する
- 8.懲罰規定 特になし。

編集；「ヒナモロコ里親会」実行委員会

実行委員長	大石 敏
顧問	木村清朗
実行委員	橋本哲男
	村下満寿雄
	藤崎寿人
	橋本芳彦
業務・会計	村上政利
会計監査	田代義隆
書記	山川英毅

事務所；連絡事務等 村上政利

〒 839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸 1 2 0 4 - 5 0

電話 09437-4-4052

Fax 09437-4-4051

mail; hinamoroko@titanist.com

ホームページ <http://www.geocities.jp/titanist2003/index.html>

発行； 平成 17(2005)年 10 月 31 日